

後記

昨年、学会総会に機関紙復刊を提案し、幸に諸彦の賛同を得、機関紙刊行準備委員会を構成して慎重審議、幾多の迂余曲折を経て、纔かに結実を見るに到つたことは感慨無量である。

戦後、物心両面の苦境に沈淪する清白の会員に、多大の負担を要請したにかかはらず、預期以上の玉稿を得たが、やむを得ざる制約の下に、かかる成果に終つたことは、得罪の念転々深きを覚えると共に、感謝感激に堪えない。

この冊子は薄く、内容についても学界の批判を俟つに到つたが、ともあれ、これは本学会生存の象徴であり、全会員合作の成績である。これを質量ともに更に価値あるものに育成することは、進徳修業に淬礪すべき全会員の責務であり、斯学の興隆を促進し、本学の發展を助長し、本教室の存在を示す所以であつて、関繋する所洵に至大である。願くば全会員がかかる自覚を通念とせられ、更に群力を宜べ衆智を併せて、本学会の健在を誇示せられるやう盼望してやまなう。

一言感懐と希望とを綴して後記とする。(一九五一年・六・一〇・小沢)

追記

○総会当日に間にあう様努力したのですが、印刷の都合で遅れました事を、深くお詫び申し上げます。

○本号完成に当りましては、会員各位より多大の御援助を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

○皆様の御健闘を御祈り致します。

(安居記)

漢文學會々報 第十三號

昭和二十六年十一月十日 印刷

昭和二十六年十一月十五日 發行

(非賣品)

篇集責任者 小澤 文 四 郎

印刷所 一誠社印刷所

東京都港区麻布本村町一七

發行所 東京文理科大学
漢文學會